

名張市における重層的支援体制整備事業について

(自治体概要) (令和5年4月1日現在)

- 人口：75,701人
- 世帯数：34,845世帯
- 面積：129.77平方キロメートル
- 高齢化率：33.8%

(重層的支援体制整備事業に取り組んだ背景・課題や、取組の理念)

地域において各家庭が抱える生活課題は、高齢や障害によるものを始め、生活困窮、虐待、不登校、子どもの貧困、DV、消費者被害など多様化・複雑化しており、8050問題やダブルケアなど、複合的な課題を有する家庭も増加しています。

こうした中、本市では、地域の身近な健康づくり・地域福祉活動の拠点として、15地域に「まちの保健室」を設置するとともに、各地域では、地域づくり組織や地域活動のリーダー等が主体となり「住民主体の生活支援」や「子育て広場」、「配食サービス」などの社会資源が生まれており、地域が自ら地域課題を「我が事」と捉え、課題解決を図る取組が進展しています。

また、複合的な課題や狭間の課題解決に向けて、平成28年に「地域福祉教育総合支援システム」をスタートさせ、庁内横断的な支援体制とともに、各分野の関係機関から一歩踏み出した支援を引き出す分野を超えた支援体制を構築し、多機関協働による取組を推進しています。

今後は、本市の誇る地域力を生かした地域の社会資源や仕組みなどを基盤として、地域社会に多様なつながりが生まれやすくするための環境整備を進め、高齢者、障害者、子どもなどの各分野を横断した連携や相談支援体制を更に推進するとともに、これから必要となる断らない相談支援・参加支援（社会とのつながりや参加の支援）や専門職による伴走型支援といった「社会的処方」による支援機能の充実を図り、全世代・全対象型包括支援センター機能を持った「地域福祉教育総合支援ネットワーク」として推進していきます。

名張市地域福祉教育総合支援ネットワーク

「名張市地域福祉教育総合支援ネットワーク」とは、複合的な課題を有する方に対し、周囲のどこからでも必要な支援につなげる循環型システムをもった、全世代・全対象型包括支援センター機能を持つネットワークである。

複合的な生活課題を抱える対象者



どこからでも繋がる

エリア会議
の開催

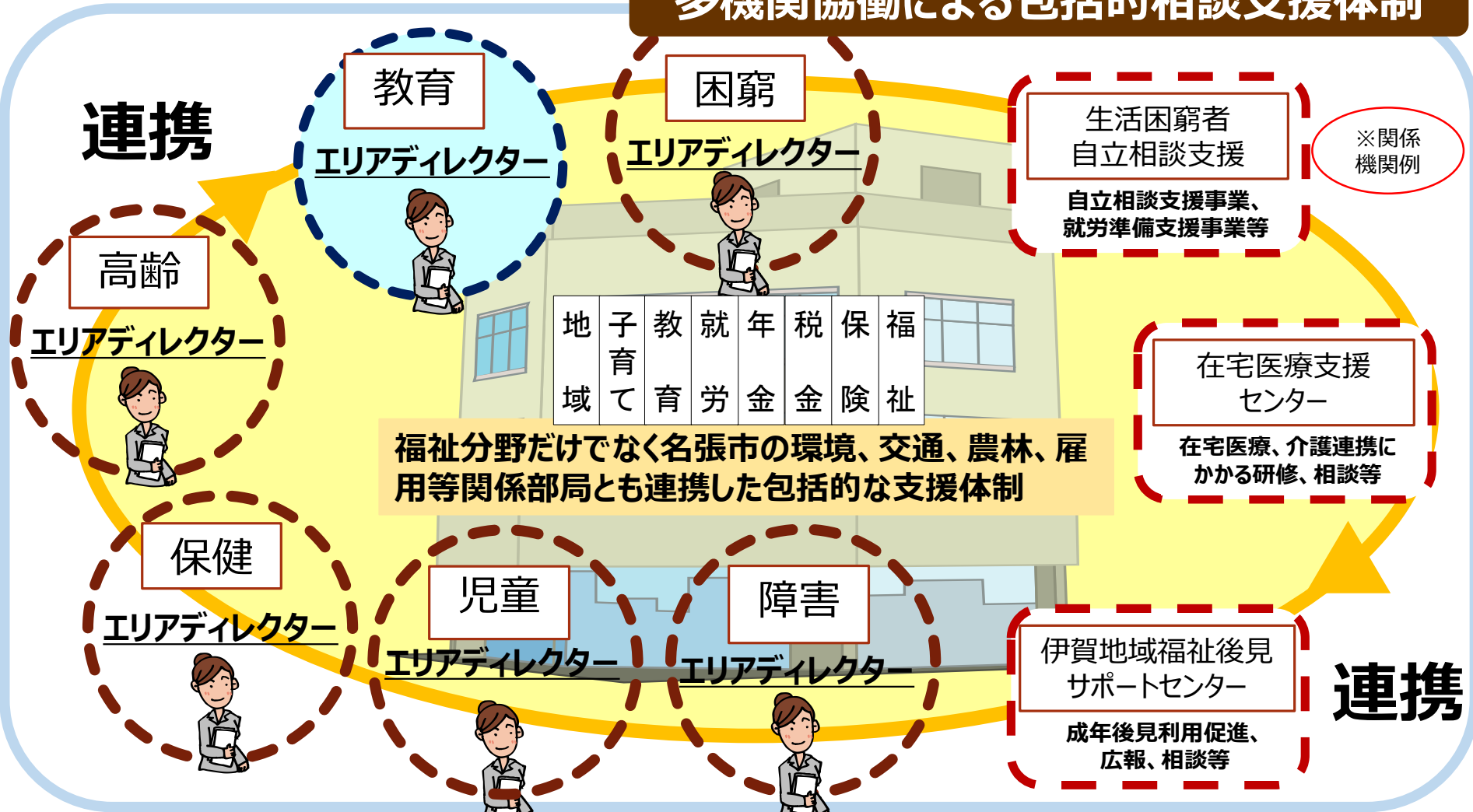


エリアディレクター(相談支援包括化推進員)

複合的な生活課題を抱える対象者に対し、高齢、障害、児童、困窮、教育の各分野で任命された5名のエリアディレクター(名張市相談支援包括化推進員)が、エリア会議(=重層的支援会議)を通じて、関係部署や機関が行う支援方法の調整等を行います。

エリアディレクターは、縦割りの関係者から一歩踏み出した支援を引き出し、それらを積み重ね、地域の課題解決能力を高めることを目的としています。

多機関協働による包括的相談支援体制



まちの保健室(小さな拠点)

～健康づくり・地域福祉活動の拠点～
社会的処方センターへ進化

15地域へ
2005年～2007年
で整備



まちの保健室

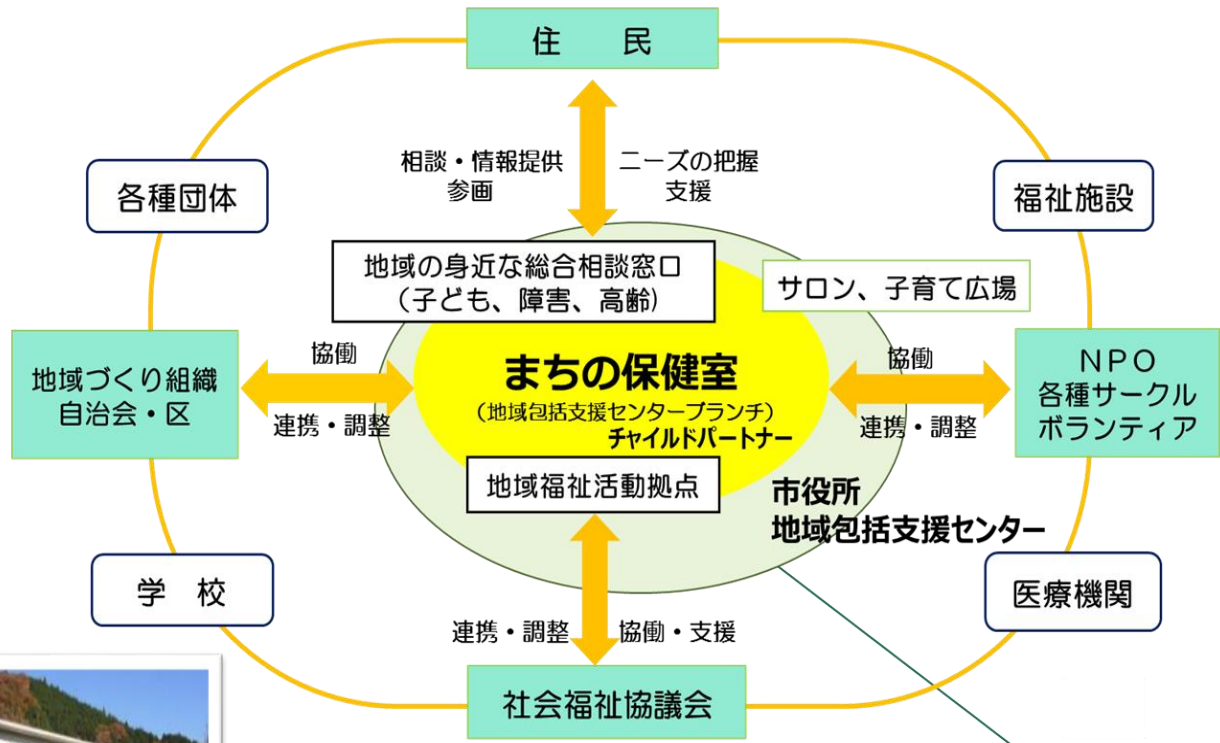
2008年度 まちの保健室 相談実績 10,833件
2021年度 まちの保健室 相談実績 30,519件

まちの保健室の活動内容

- (1) 健康・福祉の総合相談
電話・来所・訪問相談 認定調査、申請代行も
- (2) 健康づくり・介護予防
健康相談、健康づくり・介護予防の啓発
- (3) 見守り・支援ネットワークづくり
サロンの立ち上げ、運営支援
~~~~~  
・市の嘱託職員(社会福祉士や看護師、介護福祉士など有資格者各2～3名)

地域づくりと一体的に地域福祉を推進し、地域住民の日常生活圏に対応する健康福祉の拠点づくりを進めるため、2005年3月(平成17年度)策定『第一次地域福祉計画』に基づき、身近な健康づくり・地域福祉活動の拠点として市内15ヶ所、おおむね小学校単位に設置。

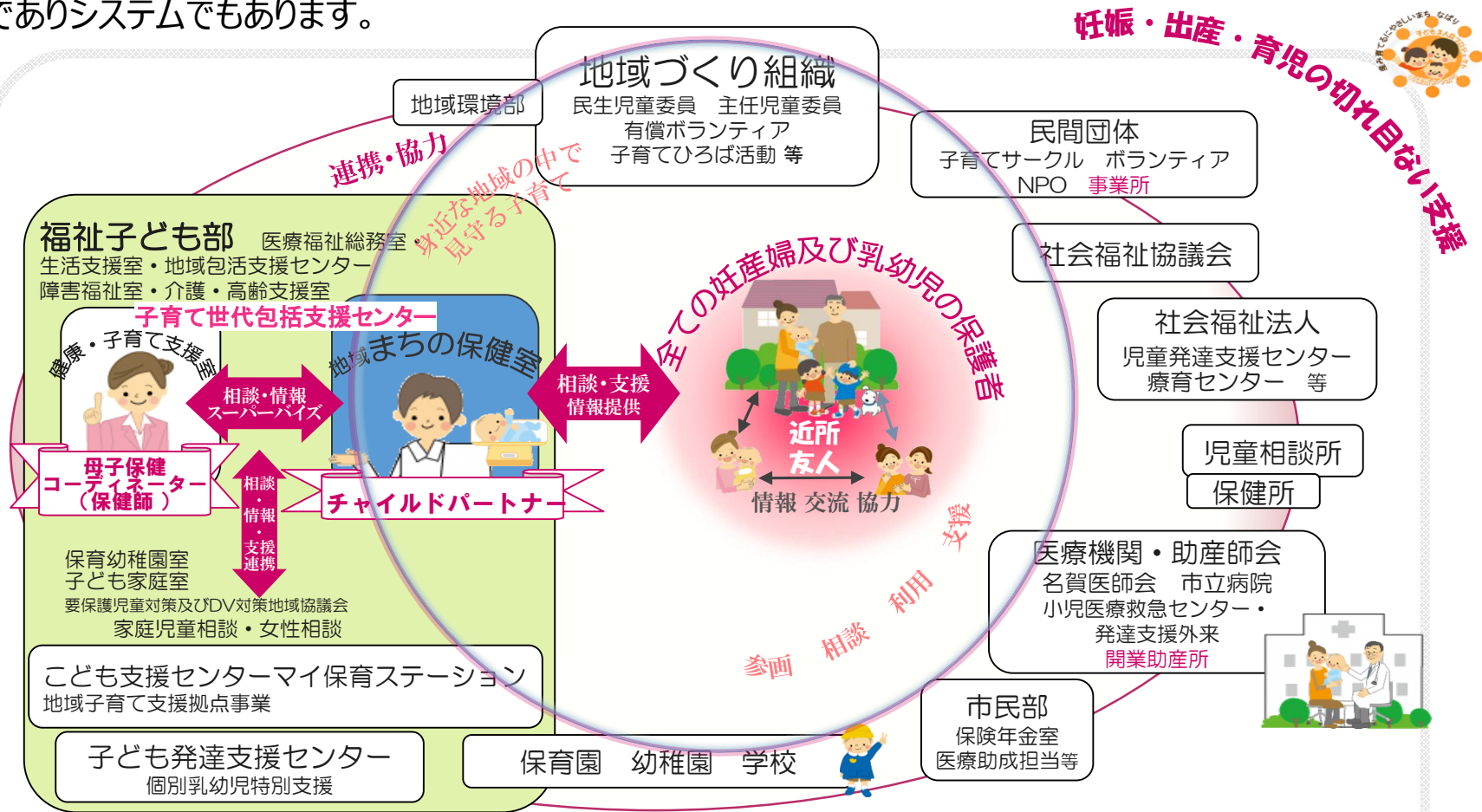
地域の福祉資源を結ぶ大きな地域福祉ネットワーク



- ◆「人の力」を生かす参加と共助のしくみづくり
- ◆「地域の力」を高める名張方式の幸せ空間づくり

# 名張版ネウボラ

「名張版ネウボラ」とは、産み育てるにやさしいまち‘なばり’をめざした、妊娠・出産育児の切れ目ない相談・支援の場でありシステムでもあります。



- ・身近なところで、妊娠段階から出産・育児まで継続的に相談を受ける
- ・母子保健と子育て支援サービスの有効な利用支援を行う
- ・個人→家族→近所→地域のエンパワーを高め、地域のソーシャルキャピタル醸成を図る

妊娠前の教育、妊娠中の相談・支援、産後直後の心身のケアができる体制を整備

# 障害者アグリ雇用推進事業

農業者の『労働力の確保』というニーズと、障害者の『就労先の確保』というニーズを結びつけ、障害者が農業で就労することによって、農業の活性化につなげることを目指します。参加支援事業では、本事業を発展させ、障害の有無に関わらず、農作業への参加を促し、本人が体験を通して人との交流に慣れ、生活リズムを作ることで、社会参加や就労等が実現することを目指します。

- 農業への親しみやスキルの向上
- 職業準備性の向上
- + ● **他者との交流**
- **生活リズムを作る**

- 農家と障害者をつなぐ
- 農作業の支援

農作業への参加  
/就農実習訓練

派遣支援

ジョブトレーナー  
養成・登録

**障害者人材センター**  
**調整**

障害者の有無にかかわらず、  
希望者への参加支援を行う

- 農家や障害者、市民へ  
本活動への積極的な参加  
を呼びかけ

社会参加や  
就労の実現  
連携協力

連携協力

**啓発事業**

- ★ スキルアップ研修会
- ★ 収穫体験イベント

関係機関

# 地域づくり組織

「住民が自ら考え、自ら行う」住民主体のまちづくり活動を支援し、段階を踏みながら住民自治の確立に向け取り組んできた。



## 1. 交付金化 地域づくり組織の活動を支援

- 2003年3月に「名張市ゆめづくり地域交付金の交付に関する条例」を制定
- 使途自由で補助率や事業の限定がない交付金

## 2. 組織の見直し 地域づくり組織条例制定

- 昭和30年代からの「区長制度」を廃止し、区・自治会である「基礎的コミュニティ」と、それを包含する小学校区を単位とする「地域づくり組織」に整理

## 3. 地域ビジョン策定

地域が目指す将来像

- 15地域が個性ある将来のまちづくりのための基本方針、将来像、それに基づく実施計画を策定

## 4. 市民センター化

公民館から市民センターへ

- 地域に指定管理委託している公民館を市民センター化。地域活動・生涯学習・地域福祉の拠点に

地域づくり組織

次のステップへ

少子高齢化、担い手不足  
組織の固定化

- 目的別団体や企業との連携、地域間の相互連携
- イベント・活動・事業の棚卸し
- 若者やコミュニティスクールを核とした担い手育成

# 地域マネジャー

## 【配置目的】

多様な地域活動が生まれやすい環境整備を行うことを目的とし、地域づくり組織を支援する地域マネジャーを配置する。

## 【活動内容】

- 地域の社会資源を幅広くアセスメントしたうえで、世代や属性を超えて住民同士が交流できる多様な場や居場所を整備する。(多様な「場」づくり)
- 地域で実施されている個別の活動や人を把握し、地域づくり組織を中心として「人と人」「人と居場所」などをつなぎ合わせる。(つなぎ・コーディネート役)
- “プラットフォーム”※が生まれやすく、維持しやすい環境整備や支援策を講じる。

地域の課題にかかわる幅広い関係者が出会い、学びあう“プラットフォーム”が形成されることで、地域資源の新たな活用策や地域課題の解決策が生まれる場ができ、地域活動の発展や地域社会の持続を支えることに繋がる。

◆ 地域の情報収集・共有

◆ 地域づくり組織への伴走支援

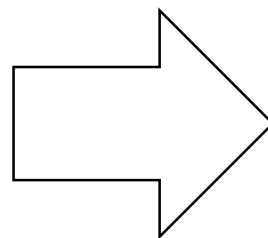
◆ 地域資源の創出

◆ ゆめづくり  
地域交付金の交付

◆ 市民センター・  
集会所等拠点支援

◆ 活動者・団体への  
研修・相談業務

◆ 地域の部会・  
役員会等に参加



出会い、学び、気づく

プラットフォームの形成

